

今までとこれからの認知症検査について

是枝 真由美

株式会社 関西環境センター

神経心理学的検査は、知能、記憶、言語等の高次脳機能の障害を評価するための検査である。この検査は、被検者と検査者の間で行われる質問式の検査である事と、一つの検査で被検者の全てを評価出来るわけではないことは心得ておく必要がある。被検者と検査者の間で行われる質問式の検査は、血液検査や生理検査と違って被検者の体調や気分、また検査者の言動や態度、被験者との信頼関係がどうかなどの、様々な要因が結果に影響する。そして、一つの検査で全てを評価することができない為、いくつかの検査を組み合わせる必要がある。一つの検査が一つの機能だけに対応しているのではないこと、どの検査がどの機能を評価しているかも熟知して導入する必要がある。

神経心理学的検査の目的としては、スクリーニング検査としての検査、認知症の症状の進行度合いや治療効果の評価としての検査等がある。

我々検査技師が携わることが多いのは、スクリーニング検査としての神経心理学的検査である。これは病院・診療所など初診受診時に検査が行われることが多い。しかし、受診時には、物忘れなどの自覚症状が出現しているため、改訂長谷川式簡易知能評価スケール (H DS-R) や Mini-Mental State Examination (MMSE) の検査を施行した場合、多くがカットオフ値を下回る結果となっている。神経心理学的検査だけでは認知症とは診断できないが、この状況は、検査に携わっているものとしては、もう少し早く診断、診察に結びつけられなかったのかと常々考えておりました。

現在、様々な研究者が研究し、侵襲性の高い髄液での検査ではなく、手軽に検査できる血液(血漿)での検査を世に送り出すために尽力くださっている。p217 や A β 1-42 等が今後、広く認知され、診療だけでなく、健康診断の項目の一つとして採用されるようになれば、より早期に認知症の早期発見、早期診断に結びつくものと願っている。

そのように認知症の検査も血液(血漿)で行われるようになっていくと、我々認定認知症領域検査技師の役割も大きくクローズアップされると考える。検体の採取であったり、認知症対応力であったりと、他の検査技師の方々や他職種の方々に伝えることができていくのではないかなと思う。日本でも世界でも大きな問題となっている認知症問題に、少しでも貢献していけると考える。

認知症の検査とその意義を考える

～髄液における認知症検査と血液検査の可能性～

堀田 真希

西日本旅客鉄道株式会社 大阪鉄道病院

認知症とは、様々な原因(脳の病気・障害など)により脳に病的な変化が起き、記憶力や判断力などの知能(認知機能)が低下し、それによって日常生活や社会生活に支障をきたしている状態をよぶ。その認知症を起こす病気はいくつもあり、一般的には、アルツハイマー病、血管性認知症、レビー小体型認知症、前頭側頭葉変性症の頻度が高く、4大認知症と呼ばれている。このうち、アルツハイマー病が最も多く、過半数を占めている。

認知症を診断する検査として、次の検査があげられる。問診や身体検査、認知機能テストなどの心理検査、CTやMRIなどの脳画像検査、血液検査や髄液検査など、複数の検査結果を総合し、認知症が診断される。具体的には、記憶力や知能を調べる「神経心理検査」、脳の状態を調べる「脳画像検査」(CT、MRI、脳血流検査など)、その他の疾患との鑑別するために実施される「血液検査」、などが実施される。その中でも髄液検査は、アルツハイマー病のバイオマーカーの一つとして非常に有用な検体であり、特に髄液中のアミロイド β 42の低下とリン酸化タウ蛋白の上昇は、アルツハイマー病の状態を反映することが知られている。この脳の老廃物が含まれる髄液を直接調べることにより、脳の状態を正確に知ることができるが、検体採取量が少なく、また正しく採取しなければ、結果に影響を及ぼすこともあり、採取時から気を付けなければいけない非常に重要な検査であることを知っておく必要がある。

近年、アルツハイマー病の診断補助を目的とした血液検査が米国で初めての体外診断用医薬品として承認された、ルミパルスで測定できる血漿中の pTau217/ β -アミロイド 1-42 の比率を測定する検査法が注目されている。アミロイド β の脳内蓄積は、アルツハイマー病による認知機能低下の原因のひとつと言われており、この検査により、血漿中の pTau217 および β -アミロイド 1-42 を測定し、その比率を評価することで脳内アミロイド β の蓄積状態が推測できるといった、血液検査で脳内の状態を推測できる非常に有用な検査である。認知症関連検査も、近年、様々な新検査が開発され、より診断率の高いものや、手技の簡便な検査が出てきている。臨床検査は検体採取から始まっており、正しい方法、手技で検体を採取し、検査を実施するためには、検査の意義や正しい検体採取法、検査実施における注意点などを理解する必要があると考える。